

◇平成 23（2010）年 7 月 4 日 文教市民委員会

No.66 灰垣委員

2 点、お伺いいたします。

1 点は今城塚、2 点目は学校・園の耐震化です。

今城塚、「いましろ 大王の杜」ですけれども、年間目標 5 万人というふうを設定されているということですが、この設定の根拠をお示してください。

それから 2 点目は、この 4 月オープンして 3 か月が経過しました。代表質問でも、間もなく 5 万人に迫るという話をさせてもらいました。4 万 5,000 人というふうにお聞きしています。4 月、5 月、来場者総数が 4 月は 1 万 8,000 弱、5 月が 1 万 4,000 弱、6 月が 8,000 ほどというふうに聞いています。代表質問でも、時がたつにつれて形骸化して、来場者も減ると違つかというふうなことを言いましたけれども、まさにそのようになっていると思いますけれども、このことについてお伺いします。

それから、耐震化ですが、耐震化の工法は何点かあるというふうに聞いていますけれども。そういうことを考えて進めていらっしゃるのか、これが 1 点目。

2 点目が、箕面市、これも代表質問で引用させてもらいましたけれども、平成 22 年度ですべて完了と。規模こそ 3 分の 1 ぐらいですけれども、このことに対してどのように認識していらっしゃるのか、お聞きします。

以上です。

No.67 鐘ヶ江文化財課長

灰垣委員の「いましろ 大王の杜」に関する 2 点のご質問でございます。

まず、来館者の目標値に関するお尋ねですが、5 万人という数値、これは本市の類似施設でございます。「しろあと歴史館」の実績、年間約 3 万人をもとに想定したものでございます。府下で見ますと、府立の近つ飛鳥博物館、弥生文化博物館、あるいは吹田市立博物館など、類似施設の実績も参考にして、文化財として判断したものでございます。しかし、その後、関係部局との連携協力の中で、メディア等への情報提供がさまざまな形で行われ、また広報紙でも積極的にお知らせしたことなどによりまして、予想を大きく超える現在の状況を獲得することができたというふうと考えてございます。

次に、この間の入館者数の推移についてのお尋ねでございます。オープン直後に比べまして来館者数が落ちついてきたのは、ご指摘のとおりでございます。ただ、この中で、団体につきましてでございますが、これまで小学校の校外学習、遠足について、市内 33 校、市外 10 校、合わせて 3,900 人受け入れており、この 3,900 人、4 月が 3,000 人、5 月が 800 人、6 月が 100 人と、非常に波があります。この団体見学を差し引きます

と、一般団体の来館者は増加傾向にございます。とりわけ、歴史サークルなどのグループ、大学の講座、その他一般の団体、こうした団体は4月当初に比べて倍増ないし3倍増しており、多くの方は市外から来られていますので、この「いましろ 大王の杜」の存在が次第に知れ渡っていているというふうなことの反映であろうというふうに考えてございます。

以上でございます。

No.68 小原学務課主幹

灰垣委員の、耐震化に関するご質問にお答えいたします。

まず、耐震補強の工法についてでございますが、大きく分けまして、在来工法による内づけ工法、外づけ工法、それと、建設会社や製造者が独自に技術開発した特殊工法の3つがございます。

耐震改修工事につきましては、建設部に依頼しておりますが、既設校舎の態様、施工性、コスト、工期、またその他事業に与える影響などを比較検討して、この校舎棟にはどの補強工法が適切かということを経営的に判断して決定しております。

次に、箕面市の学校施設の耐震化についてでございますが、国が平成21年度に経済緊急対策として推進しました文部科学省のスクールニューディール構想に基づく交付金を活用して、平成21年度、22年度の2か年で、学校施設の耐震化を完了したと聞いております。よろしく申し上げます。

No.69 灰垣委員

まず、5万人の設定が、皆さんの努力、これは間違いなくあったのだと思います。4月、5月で3万人を超える来場者があったと。なぜ5万人ということをお聞きしたかという、先ほど答弁の中にありましたけれども、「しろあと歴史館」で、毎年、平成14年度オープンから3万人前後入館されています。この「いましろ 大王の杜」の位置づけが、「しろあと歴史館」とは違うというふうに私は思っています。高槻ブランドの一環であるというふうに前々からおっしゃっていたわけございまして、市長公室、そして都市産業、商工観光も絡んでくる、そういった事業であるというふうに私は認識しています。この5万人の設定も、教育委員会というか、文化財課で決定されたというふうに聞いていますけど、それは違うんじゃないかというふうに私は思って、改めてお聞きしました。

市外からの方が多というふうにお聞きしまして、アンケートも実施されているということで、その「いましろ 大王の杜」利用に、アンケートで、認知手段が「広報たかつき」というのが34%、意外だなというふうに私は思ったんですけども、市外の方が「広報たかつき」を見る機会、どんな機会があるのか、ちょっと私は不思議なんです。まず、

インターネットで市外の人多く見るんじゃないかと私は認識してたんですが、ちょっと数字が低いので的外れだったんですけれども、この「いましろ 大王の杜」、インターネットのところまで入っていくのにどのようにされるかというのは、皆さんご存じだとは思いますが、まず、3か所ほどトップページから入る方法があります。

史跡今城塚古墳というタグがありますね。それから、インターネット歴史館というのがありますけれども、最初に、今城塚古墳、古代歴史館というところに入ると、ちょっと小さいんですけれども、こういうところに入っていきます。この一番上の今城塚古墳公園、これが見たいなと思って出すと、最初に、私、笑ってしまいましたけれども、禁止事項というのが出ているんです。皆さんが気持ちよく利用できるよう、ほかの人の迷惑となる行為はやめましょう、ルールとマナーを守って郷土の貴重な文化財に親しんでください。これがトップに来るのは、ちょっと違うんじゃないかと私は思いました。

JR高槻駅にポスターを張られたということで、あえてお持ちしました。皆さん、見てください。これはどこにあるんでしょう。あかされる継体大王のなぞ、2011年4月1日金曜日公開、史跡公園・今城塚古代歴史館——何市にあるんでしょう、これ。あっ、わかりました。所在地、高槻市郡家新町。ありがとうございました。

建環産業委員会で、商工観光課長だったかな、連携してやっていますとおっしゃってました。市長公室のほうも、そのようにお聞きしています。全く連携されていないというふうに私は認識をしました。

先ほど紹介のあった近つ飛鳥博物館、そして大阪府立弥生文化博物館、吹田市立博物館、調べさせてもらいました。各入館者数です。規模は、近つ飛鳥博物館の場合は、ちょっと大き目というふうに聞いています。吹田と大阪府立は、この今城塚と同じような規模だと聞いてますけれども、吹田市立の場合は、平成4年の開館から1万人台しか入ってない。そういう意味からいえば、文化財課の皆さん、頑張っているらっしゃると評価できます。突然、平成18年に3万5,000万人まで膨れ上がっているんです。このことについては、詳細はまた、きょうは述べませんが、それと、弥生文化博物館が平成21年度が4万9,000人、平成22年度が5万8,000人ということで、どんと上がって、この理由はお聞きしました。皆さんご存じかと思えますけれども、橋下知事が廃止だということで、職員の方がおしりに火がついて努力をしたというふうに私は認識しました。

ちょっと努力ができてないというふうに。せっかくこれだけのものをつくって、できましたということで、先ほどポスターも見ていただきましたけれども、先月の6日に、議員団8人で視察に行かせていただいて、森田館長の丁寧なご説明をいただいて、あっ、これは立派な建物だなというのは、改めて、私はそういう感想を持ちました。にぎわいのあるまちでしたか、住みやすいまちナンバーワンでしたか、市長がおっしゃる、交流人口をふやす一つのツールでありますから、このことに対してどのように考えているのか、これは教育委員会では言えないことだと思うので、副市長に答弁していただけたらと思っています。

それから、耐震化、スクールニューディールの話が出ました。平成21年、私、一般質問でさせていただきました。箕面市——高石市をそのときは引用させてもらいましたけども、高石市も平成22年度で全部完了しています。その上、箕面市は、実は耐震化だけじゃないんですよ。太陽光発電、エレベーター、それからトイレ、エコトイレ、こじつけたんでしょうね。国の補助金8割、市の負担2割でできているんです。それも平成22年度に。高槻は平成27年度中には何とかしますという、このこともやはり考えなくちゃいけないと思っています。聞くところによると、これは市長に失礼ではないと思いますが、箕面の市長は国の官僚であったと、何とかして、ここにこじつけようということで、補助金をむしり取ったと、こういうふう聞いています。

高槻市も、国から来られている方もいらっしゃいますし、今後、このことについて、これも代表質問でも重要ですよ。歳入確保——また国から、府からの補助金も大事ですよということを盛り込ませていただきましたけれども、このことについてもどのように思っているかということ、これも教育委員会では答えられないと思うんで、副市長よければ、ご答弁をお願いします。

No.70 山本副市長

ただいまの2点につきまして、お答えを申し上げます。

まず、1点目の「いましろ 大王の杜」につきまして、もっとより積極的にPRすべきだと、こういう件でございます。

少子高齢化が非常に進んでまいっております。そういった中で、市の活性化、また発展を図っていくためには、やはり先ほどもおっしゃっていただきましたように、一人でも多くの方が高槻市を訪れていただく、また一人でも多くの方が住んでいただく、こういうことが、今後、本市にとって非常に肝要なことであると、このように考えております。

そのようなことからいたしまして、史跡の今城塚古墳を初めといたしまして、本市が誇ります素晴らしい歴史遺産、また、いざというときに、本市にとりましては非常に医療機関が充実している、またさらに多くの自然が残っている、こういった部分で、やはり本市の持っているすばらしさ、また住みやすさを、市内外に広くPRすることが我々としては大切だと、このように考えております。

先ほどもございましたけれども、市長のキャッチフレーズでございます、住みやすさナンバーワンのまちづくりに向けまして、今後とも、全市一丸となって連携を密にしながら、これらに取り組んでまいりたいと、このように考えておりますので、よろしく願いをいたします。

それから2点目の、学校の耐震化等の関係での財源の話でございます。

本市の財政が非常に厳しい中で、さまざまな事業をより効果的に進捗していくためには、議員ご指摘のように、国、府の補助金、また交付金制度を効率的に活用することが大切で

ございます。今日的な状況といたしましては、国の制度といたしまして、従前の補助金の制度から交付金制度へと変更がなされてまいりました。一定基準はあるものの、市町村の弾力的な運用、活用が可能となってきたところでございます。さらに、今年度からは一歩進んで、これは都道府県が対象でございますけれども、一括交付金制度が導入をされた、こういう状況でございます。

こういった中で、本市といたしましても、これらの状況を踏まえまして、より有利な条件で事業の進捗を図るべく、今後とも努力をしてみたいと、このように考えておりますので、よろしく願いいたします。

No.71 灰垣委

市長は、市民目線というのをよく使っていらっしゃいましたけれども、先ほど大阪府立弥生文化博物館のお話をしましたけれども、おしりに火がつかないといけないようでは、本当に市民目線にならないというふうに私は考えています。今城塚に関しては、3か月目、ちょっと入場者が、努力はされてますけれども、減っている。専門家的な方たちはむしろふえているようなデータをもらいましたけれども、高槻ブランドは、その専門家の方たちだけが集うまちでは、そういうためのブランドではないというふうに思いますので、どうかしっかりと連携をとった、縦割りをいつまでもやってるんじゃなくて、中心者を定めて、どこに責任があるのかということを決めて、今後も進めていただきたいと思っています。

耐震化もそうですけれども、責任の所在がないと、どこまでいっても——最後は市長の責任だと、そういうことになるのかもしれませんが、やはり一つ一つ進めていくためには、そういったこともどこかで必要になってくるというふうに思います。

市民会館も、建てかえに向けてこれから動き出すわけですが、いかに市民の負担を減らすかということも考えると、やはり国の補助金、交付金等を活用するというのが非常に重要になってくると思いますので、今の政権も国民不在というふうに言われています。市民不在にならないようお願いしておきます。

今城塚でジャズとかコラボレーションとか特産品とかいう話もしましたけれども、今、震災地の物産を買うことによって支援をするといったことも動きとしてあるようです。例えば、失礼な方法になるのかもしれませんが、今城塚のその場所で、そういったことも考えて、いろんな知恵を絞って、「でき女」とかいう、今ちょっと話題になっていますけれども、そういった方たちにも声をかけてみるとか、マニアックな人はいらっしゃいます。500万円の寄附をしてくれている人もいらっしゃいます。そういった人も含めて、やはり期待されていると思いますので、どうかよろしく願いをいたします。

以上で終わります。